

《原 著》

「医心方」「鍼灸聚英」「鍼灸大成」に於ける  
高血圧症らしき症状に対する主治穴について

明治鍼灸大学・東洋医学基礎教室

津中 俊典 出野 陽二 高島 文一

要旨：「医心方」は現存する日本最古の医学書であり、丹波康頼が984年に撰述したとされている。全30巻でその第2巻が鍼灸篇となっている。その中の孔穴主治法第一を見ると合660穴、明堂経穴649、諸家方穴11と書かれている。大部分が「黄帝内经明堂経」から引用されたものであることが推定される。

「鍼灸聚英」は1529年明の高武が編述したものであり、又「鍼灸大成」は1601年明の楊繼洲が編述したものである。何れも宋以後の改編を経て、経絡経穴は整備され、五行論的要素が加わったものと考えられる。しかし両書にも70年の年月を隔てて、多少の相違点が見られる。

これらの三書の中から、現代医学の高血圧症とされている症例の中から1.頭痛、2.眩暈、3.耳鳴、4.鼻衄、5.心痛、6.心煩驚悸、7.面赤、8.頸項肩痛、9.半身不随、10.口面喎斜を選びその主治穴を探索し、それらを総合して高血圧症の治療穴を摸索しようとした。

Concerning the principal meridian points for the hypertension-like symptoms in *Ishinpo*, *Zhenjin Juying* and *Zhenjin Dacheng*

Toshinori TUNAKA, Yoji IDENO and Bunichi TAKASHIMA

*Department of Oriental Medicine, Meiji College of Oriental Medicine*

Summary: The "*Ishinpo*" is wellknown at present as the oldest medical textbook in Japan.

It is presumed that most of its contents were quotations from chinese medical literature and written by Yasuyori Tanba in 984 A.D.

The "*Ishinpo*" consists of 30 chapters, and in the chapter of acupuncture and moxibustion 660 meridian points are mentioned, 649 points from "*Huangdi Neijing Mintang*" and 11 points from other sources.

The "*Zhenjin Juying*" was edited by Goo Wu of the Ming dynasty in 1529, and the "*Zhenjin Dacheug*" was edited by Yang Jizhou of the Ming dynasty in 1601.

These two books have arranged Meridians and meridian points and the three books are to some extent different to each others in their assertions.

The author detected the treatment points for the hypertension-like symptoms in the three books.

The ten from the symptoms are selected i-e.

- 1) headache, 2) vertigo, 3) tinnitus, 4) epistaxis, 5) heartache, 6) tachycardia,
- 7) blushed face, 8) neck, nape and shoulder pain, 9) hemiplegia, 10) facial paralysis.

Key worde: 経穴 Meridian point, 高血圧症 hypertension, 医心方 *Ishinpo*, 鍼灸聚英 *Zhenjin Juying*, 鍼灸大成 *Zhenjin Dacheng*.

## I 緒 言

「医心方」は現存する日本最古の医学全書である。984年丹波康頼により撰述され、円融天皇に献上されて長く宮中に保管された。16世紀になって正親町天皇は、これを御典医、半井瑞策に下賜された。

半井家は和氣清麻呂の子孫であり、明治に至るまで丹波、和氣両家が日本の医学を支配したと言っても過言ではない。

1850年代になって徳川幕府の最高の医学研究所であった医学館に3ヶ月間貸し出され、丹波氏の子孫である多紀一門により筆写された以外、半井家に秘蔵された権威ある書物である。全30巻より成り、第2巻が鍼灸篇である。この中の孔穴主治法第一には合660穴、明堂経穴649、諸家方穴11と書かれている。この場合の明堂経は、「明堂孔穴鍼灸知要」の流れを引く。「黄帝内経明堂経」をさすものと推定され、現在世界で只一部、全13巻の中、第一巻のみ、京都仁和寺に保存されている。「医心方」の内容を調査することは唐以前の孔穴主治症を調査することになると考えられる。

「鍼灸聚英」は明の高武が1529年編述したものであるが、この時代には宋時代の改訂を経て経絡経穴もよく整備されてきている。

「鍼灸大成」は明の楊維洲が1601年編述したものであるが、更によく整備され、中国やヨーロッパの鍼術は殆んどこれに依拠しているとされている。

以上三書を調査して高血圧症らしき症候を拾い上げ、これに対する主治穴を探索することにより、400年以前の古代における高血圧症の鍼灸治療の主治穴を知ろうとした。

## II 方 法

安政刊本「医心方」第二巻鍼灸篇の孔穴主治法の中から、高血圧症らしき症候として、1.頭痛、2.眩暈、3.耳鳴、4.嘔吐、5.心痛、6.心煩驚悸、7.面赤、8.頸項肩痛、9.半身不随、10.口面喎斜を選び、それらに対して効果ありと記載された経穴を選び出した。

つづいて「鍼灸聚英」（上海技術出版社刊行）「鍼灸大成」（人民衛生出版社刊行）から同様に10項目について効果ありと記載された経穴を選び出し、「医心方」の経穴と比較対照した。

記載の方法は別表のように上段に「医心方」「鍼灸聚英」「鍼灸大成」を並列し、1.頭痛、2.眩暈、3.耳鳴、4.嘔吐、5.心痛、6.心煩、驚悸、7.面赤、8.頸項肩痛、9.半身不随、10.口面喎斜の順序に、経絡毎に経穴名を書き、書中に記載のあるものを+、記載のないものを-と記し、+については表現された字句も併記した。

身体部位については、丹波康頼創案の「医心方」の様式に従い、頭部、面部、頸部、肩部、手部、背部、胸部、腹部、足部の順に綱目を作り、経絡については、現代の鍼灸腧穴学の記載様式に従って、督脈、任脈、肺経、心経、心包経、大腸経、小腸経、三焦経、胃経、膀胱経、胆経、肝経の順に分類記載した。

## III 結果ならびに考察

三書について共通する主治穴は次のようであった。

### 1. 頭 痛

頭部では督脈の後頂、腦戸、風府、三焦経の顛息、和髻、膀胱経の承光、玉枕、胆経の懸顛、卒谷、天衝、竅陰、完骨、承靈、腦空、

面部では督脈の上星、神庭、三焦経の糸竹空、膀胱経の睛明、曲差。

頸部では、三焦経の天關、膀胱経の天柱、胆経の風池。

手部では肺経の孔最、魚際、心経の青靈、通里、心包経の太陵、大腸経の合谷、陽谿、温溜、小腸経の少沢、後谿、少海、三焦経の関衝、液門、中渚、天井、消灑、背部、督脈の命門、膀胱経の大杼、風門、三焦俞、腎俞。

腹部では、任脈の関元。

足部では胃経の解谿、膀胱経の飛陽、附陽、京骨、通谷、至陰、胆経の外丘、竅陰である。

頭部、額部、項頸部、手関節の附近、背部の上胸椎部及び腰椎部、足関節の附近に特に多い。

## 2. 眩暈

頭部では督脈の後頂、顛会、膀胱經の承光、絡却、胆經の額厭。

面部では、胆經の本神、督脈の上星、神庭、頸部では膀胱經の天柱、胆經の風池。

背部では、膀胱經の肝俞。

腹部では、任脈の関元。

足部では膀胱經の飛陽、胆經の臨泣、俠谿である。

頭痛と重複するものは、頭部では後頂、承光。

面部では、督脈の上星、神庭。

頸部では、膀胱經の天柱、胆經の風池。

腹部では任脈の関元。

足部では膀胱經の飛陽である。

## 3. 耳鳴

頭部では、三焦經の顛息、翳風、胆經の額厭。

面部では三焦經の耳門、胆經の客主人。

手部では大腸經の商陽、陽谿、偏歷、小腸經の前谷、腕骨、陽谷である。

耳の周囲及び腕関節附近の陽經に多い。頭痛、眩暈とは殆んど重複しない。

## 4. 熱 痢

頭部では膀胱經の通天、胆經の承靈。

面部では督脈の上星、素髻、大腸經の和髻、迎香。背部では、膀胱經の意諱。

手部では肺經の天府、心包經の郄門、大腸經の合谷、偏歷。

足部では胃經の厲兌、膀胱經の承筋、飛陽、崑崙、京骨、通谷、脾經の隱白である。

鼻の周囲及び陽明經及び、膀胱經の末梢穴が多い。特に飛陽は、頭痛、眩暈とも重複する。

## 5. 心 痛

手部では肺經の俠白、尺沢、心經の極泉、靈道、陰郄、少衝、心包經の曲沢、郄門、間使、内関、大陵、中衝、小腸經の少沢、三焦經の天井、胸部、任脈の膻中、天突。

腹部では任脈の建里、中脘、上脘、巨闕、鳩尾である。

手部の心包經が多く、胸部の膻中、腹部では心窩部が多い。殆んど、頭痛、眩暈などとは重複し

ない。心痛は高血圧の症状としては稀なものと考えられる。高血圧の結果、動脈硬化を来し、狭心症、心筋硬塞などを呈するに至って表れるものと考えられる。

## 6. 心煩驚悸

頭部では、督脈の顛会、膀胱經の承光、完骨。手部では肺經の少商、心包經の大陵、大腸經の陽谿、胸部では任脈の玉堂、紫宮、腹部では任脈の巨闕である。手関節部、胸部の胸骨の上、腹部の心高部に多い。心煩驚悸は高血圧症として現われ易い症状である。

## 7. 面 赤

面部では、小腸經の顴髻、足部では胃經の解谿である。顴髻は、頬の中心であり、言わば局所である。足部の解谿は胃經の遠隔取穴と考えられる。

面赤は高血圧症としては、よく現れる。

## 8. 頸項肩痛

頭部では膀胱經の通天、胆經の額厭、竅陰、面部では胆經の本神、手部では小腸經の少海である。

## 9. 半身不隨

頭部の督脈の風府のみである。「医心方」には半身不隨の言葉は出てこない。「鍼灸聚英」でも「鍼灸大成」でも殆んど半身不遂と書かれている。「医心方」の風府の所には、舌急難言、足不仁と書かれている。

半身不隨は高血圧症としては、脳出血の後遺症としてあらわれることが多いので、多発するものではない。

## 10. 口面喎斜

頭部では胆經の完骨、面部では督脈の水溝、任脈の承漿、大腸經の迎香、小腸經の顴髻、胃經の承泣、四白、巨髻、手部は大腸經の二間。

足部では胃經の内庭である。

口面喎斜は顔面神経麻痺と考えられ、脳出血の後遺症として現われてくるので、高血圧症としては、稀なものと考えられる。

完骨は、顔面神経の経路に近い所と考えられ、面部の諸穴は、局所の筋に対する治療穴であり、足部の内庭は胃經の遠隔取穴と考えられる。

以上を概括すると、1.頭痛52穴、2.眩暈15穴、

表1 頭痛

身体部位	経絡名	経穴名	主治症				
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成		
頭 部	督 脈	額 会	風眩頭痛	腦疼如破	(-)		
		首 会	(-)	頭痛目眩	頭痛目眩		
		後 頂	顫上痛	額顫上痛	頭偏痛		
		強 間	(-)	頭痛目眩	頭痛目眩		
		腦 戶	頭重項痛	頭重腫痛	頭 痛		
		風 府	頭痛項急	惡寒頭痛	頭 痛		
		三焦經	瘕 門	項 強	頭 痛	(-)	
			顫 息	頭脇痛	身熱頭痛	身熱頭痛	
			耳 門	頭額痛	(-)	(-)	
			和 膠	頭重額痛	頭重痛	頭重痛	
			胃 經 膀胱經	頭 維	頭痛如破	頭 痛	(-)
				五 處	頭 痛	頭風熱	(-)
	承 光	風眩頭痛		風眩頭痛	風眩頭痛		
	胆 經	通 天	頭痛項痛	項痛重	(-)		
		絡 却	腦風眩頭痛	(-)	(-)		
		玉 枕	頭項惡風	頭項痛	頭風痛不可忍		
		頷 厭	頭痛引目外眦	偏頭痛	(-)		
		懸 顫	頭 痛	頭 痛	頭 痛		
		曲 髻	頷額摺滿引齒牙	腦兩角痛	(-)		
		卒 谷	兩角眩痛	兩角強痛	兩角強痛		
		天 衝	頭 痛	頭 痛	頭 痛		
		竅 陰	項痺痛引頸	頭項額痛	頭項額痛		
		完 骨	風頭耳後痛	頭風耳後痛	頭風耳後痛		
		目 窓	頭痛目眩	頭 痛	(-)		
		承 靈	腦風頭痛	頭 痛	腦風頭痛		
	面 部	督 脈	腦 空	風眩頭痛	頭重痛	頭重痛不可忍	
			風 池	眩頭痛	偏正頭痛	偏正頭痛	
上 星			頭痛引額	頭 風	頭 風		
三焦經 胃 經 膀胱經		神 庭	寒熱頭痛	寒熱頭痛	寒熱頭痛		
		水 溝	寒熱頭痛	(-)	(-)		
		絲 竹	頭 痛	目眩頭痛	目眩頭痛		
		四 白	(-)	頭 痛	頭 痛		
		晴 明	風寒頭痛	憎寒頭痛	憎寒頭痛		
		攢 竹	風頭痛	(-)	寒熱頭痛		
胆 經	曲 差	頭痛身熱	頭項痛	頭項痛			
	本 神	頭痛目眩	(-)	(-)			
	陽 白	頭目瞳子痛	(-)	(-)			
頸 部	三焦經 胃 經 膀胱經 胆 經	天 髎	頭額痛	頭 風	頭 風		
		人 迎	頭痛胸滿	(-)	(-)		
		天 柱	眩頭重痛	頭旋腦痛	頭旋腦痛		
		風 池	眩頭痛	偏正頭痛	偏正頭痛		

表1 頭 痛 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
手 部	肺 経	孔 最	頭痛振寒	頭 痛	頭 痛
		魚 際	身熱頭痛	身熱頭痛	身熱頭痛
	心 経	青 靈	頭痛振寒	頭痛振寒	頭痛振寒
		少 海	(一)	腦風頭痛	腦風頭痛
	心包経	通 里	頭痛少氣	目眩頭痛	目眩頭痛
		大 陵	頭痛如破	身熱頭痛	身熱頭痛
	大腸経	合 谷	頭齒痛	頭 痛	頭 痛
		陽 谿	厥逆頭痛	厥逆頭痛	厥逆頭痛
	小腸経	温 溜	寒熱頭痛	寒熱頭痛	寒熱頭痛
		上 廉	(一)	腦風頭痛	腦風頭痛
	三焦経	小 沢	頭 痛	頭 痛	頭 痛
		前 谷	頭項急痛	(一)	(一)
	腕 骨	後 谿	眩頭痛	頭項強不得回顧	頸項強不得回顧
		支 正	(一)	痲瘡頭痛	痲瘡頭痛
	小 海	正 海	頭眩痛	(一)	(一)
		関 衝	眩頭痛	風眩頸項痛	風眩頸項痛
	液 門	液 門	頭眩額痛	頭 痛	頭 痛
		中 渚	頭 痛	頭 痛	頭 痛
	天 井	天 井	頭 痛	目眩頭痛	目眩頭痛
		清 淵	振寒熱頸項肩背痛	振寒頸項痛	振寒頸項痛
消 滌	消 滌	頭痛振寒	(一)	(一)	
		熱痺頭痛	頭 痛	頭 痛	
背 部	腎 脈	命 門	頭痛如破	頭痛如破	頭痛如破
		神 道	(一)	頭 痛	頭 痛
膀胱経	大 杼	風 門	頭 痛	頭風振寒	頭風振寒
		肝 俞	風眩頭痛	頭項強	頭項強
胆 俞	三焦俞	胆 俞	目眩頭痛	肩頭痛	(一)
		三焦俞	(一)	頭 痛	頭 痛
腎 俞	小腸俞	腎 俞	頭痛足寒	傷寒頭痛	傷寒頭痛
		小腸俞	(一)	目眩頭痛	目眩頭痛
臆 諱		臆 諱	(一)	頭重身熱	頭重身熱
			(一)	頭 痛	頭 痛
胸 部	任 脈	天 突	頭 痛	小兒食時頭痛	小兒食時頭痛
			(一)	(一)	(一)
腹 部	任 脈	関 元	頭眩痛	風眩頭痛	風眩頭痛
		上 皖	頭眩痛	(一)	(一)
心包経	鳩 尾	鳩 尾	(一)	偏頭痛引目外眦	偏頭痛引目外眦
		天 池	(一)	頭 痛	頭 痛
足 部	胃 経	豐 隆	(一)	風痰頭痛	風痰頭痛
		解 谿	頭眩面日赤	頭 痛	頭 痛

表1 頭痛 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
	膀胱経	承筋 飛陽 附陽 崑崙 京骨 東骨 通谷 至陰 外丘 陽輔 竅陰	頭眩痛 頭眩痛 頭重 (-) 頭重 (-) 項痛振寒 頭重鼻衄項痛 脇頭痛項上患 (-) 頭痛 (-)	(-) 頭背痛 頭重痛 頭痛 頭痛如破 頭顛項痛 頭重目眩 鼻塞頭重 額項痛 頭角頷痛 頭痛心煩 陰頭中痛	(-) 頭背痛 頭重痛 頭痛 頭痛如破 頭顛項痛 頭重目眩 鼻塞頭重 額項痛 頭角頷痛 頭痛心煩 陰頭中痛
	胆経				
	肝経	太敦			

表2 眩暈 (1)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
頭部	督脈	風府 強間 後頂 百会 頭会 五处 承光 絡却 玉枕 頷厭 臨泣 日窓 正營	眩暈 (-) 眩暈 (-) 眩暈 (-) 眩暈 眩暈 (-) 眩暈 (-) (-) (-)	(-) 目眩頭旋 惡風寒風眩 頭痛目眩 頭眩 目眩 風眩頭風 頭施耳鳴 風眩 頭風目眩 目眩 忽頭旋 目眩瞑	(-) 頭痛目眩 風眩 頭痛目眩 頭眩 目眩 風眩頭風 頭旋耳鳴 (-) 頭風目眩 目眩 忽頭旋 目眩瞑
面部	督脈	上星 神庭	眩暈 眩暈 (-)	目眩 頭風目眩	目眩 頭風目眩
	胃経	四白	(-)	目眩	目眩
	膀胱経	攢竹	(-)	風眩	風眩
	三焦経	本神	眩暈	目眩	目眩
頸部	膀胱経	天柱	目暈	頭旋腦痛	頭旋腦痛
	胆経	風池	目眩	目眩	目眩
手部	肺経	天府 魚際	(-) (-)	目眩 目眩	目眩 目眩

表2 眩 暈 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
背 部	心 經	少海	(-)	目眩癡狂	目眩癡狂
		通里	(-)	目眩頭痛	目眩頭痛
	小腸經	陽谷	(-)	目 眩	目 眩
		中渚	(-)	目眩頭痛	目眩頭痛
	膀胱經	大杼	(-)	身熱目眩	身熱目眩
		肝俞	眩 暈	目 眩	目 眩
三焦俞		(-)	頭重目眩	目眩頭痛	
	譙諱	(-)	目 眩	目 眩	
腹 部	任 脈	関元	眩 暈	風眩頭痛	風眩頭痛
	肝 經	期門	眩 暈	(-)	(-)
足 部	膀胱經	飛陽	眩 暈	目 眩	目眩痛
		崑崙	(-)	目 眩	目眩痛如脱
		中渚	(-)	風 眩	風 眩
		京骨	(-)	目 眩	目 眩
		束骨	(-)	目眩身熱	目眩身熱
		通谷	(-)	頭重目眩	頭重目眩
	腎 經	湧泉	(-)	頭痛目眩	頭痛目眩
		臨泣	眩 暈	目 眩	目 眩
	胆 經	俠谿	眩 暈	目 眩	目 眩
	肝 經	曲泉	(-)	目 眩	目眩痛

表3 耳 鳴 (1)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
頭 部	腎 脈	百会	耳 鳴	(-)	(-)
		会厭	(-)	頭風耳鳴	頭風耳鳴
		顛息	耳 鳴	耳 鳴	耳鳴痛
		翳風	耳 鳴	耳 鳴	耳 鳴
	膀胱經	絡却	(-)	頭旋耳鳴	頭旋耳鳴
		胆 經	頷厭	耳 鳴	耳 鳴
		浮白	(-)	耳 鳴	耳 鳴
		竅陰	(-)	耳嘈々耳鳴無所聞	耳嘈々耳鳴無所聞
面 部	三焦經	耳門	耳 鳴	耳鳴如蟬声	耳鳴如蟬声
		承泣	(-)	耳 鳴	耳 鳴
	胆 經	下関	(-)	耳 鳴	(-)
頸 部	小腸經	客主人	耳 鳴	耳 鳴	耳 鳴
		天容	(-)	耳 鳴	耳 鳴





表4 鼻 衄 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
腹 部	任 脈	上 髻	(-)	鼻 衄	鼻 衄
		陰 交	(-)	鼻 出 血	鼻 出 血
		水 分	(-)	鼻 出 血	鼻 出 血
足 部	胃 經	中 脘	衄 衄	(-)	(-)
		内 庭	(-)	鼻 衄 不 止	鼻 衄 不 止
		厲 兌	衄 衄	衄 衄	衄 衄
		承 筋	衄 衄	鼻 衄 衄	鼻 衄 衄
		飛 陽	衄 衄	虚 則 衄 衄	虚 則 衄 衄
	膀胱經	委 中	衄 衄	(-)	(-)
		崑 崙	衄 衄	衄 衄	衄 衄
		京 骨	衄 衄	鼻 衄 不 止	鼻 衄 不 止
		通 谷	軌 衄	引 衄 衄	引 衄 衄
		至 陰	鼻 衄	(-)	(-)
脾 經	臍 中	衄 衄	衄 衄	衄 衄	
	隱 白	(-)	衄 衄	衄 衄	
胆 經	懸 鐘	(-)	衄 衄	衄 衄	
	白 鐘	(-)	鼻 衄	鼻 衄	

表4 心 痛 (1)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
手 部	肺 經	俠 白	心 痛	心 痛 短 氣	心 痛
		尺 澤	心 痛	心 痛	心 疼 兇 寒
		経 渠	(-)	心 痛 呕 吐	心 痛 呕 吐
		太 淵	(-)	心 痛 脈 澹	心 痛
		魚 際	心 痛	心 痺 悲 恐	心 痺 悲 恐
		極 泉	心 痛	心 痛	心 痛 十 呕
		少 海	(-)	心 疼	心 疼
		靈 道	悲 恐 心 痛	心 痛	心 痛
		通 里	心 痛	(-)	(-)
		陰 郄	心 痛	心 痛	心 痛 霍 乱
	心 包 經	神 門	(-)	心 痛 数 噫	心 痛 数 噫
		少 衝	上 氣 心 痛	厥 心 痛	胸 心 痛
		天 泉	(-)	心 痛	(-)
		曲 澤	心 痛	心 痛 善 驚	心 痛
		郄 門	心 痛	心 痛 呕 噦	心 痛 呕 噦
		間 使	卒 心 痛	卒 心 痛	卒 心 痛
		内 関	心 暴 痛	心 暴 痛	心 痛
		大 陵	心 痛	心 痛 掌 熱	心 痛 掌 熱
		中 衝	心 痛 身 熱 如 火	心 痛 煩 滿	心 痛 煩 滿
		少 澤	心 痛 口 乾	口 乾 心 煩	口 干 心 煩
小 腸 經	支 溝	(-)	卒 心 痛	卒 心 痛	
	三 焦 經				

表5 心痛 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
背部	腎脈 膀胱経	天井	心痛	心胸痛	心胸痛
		長強	心痛 (-)	(-)	(-)
		筋縮	(-)	心痛	心痛
		厥陰命	(-)	心痛	心痛
		心命	心痛背相引	(-)	(-)
		膈命	(-)	心痛	心痛
胸部	任脈	魂門	(-)	胸背連心痛	胸背連心痛
		膻中	心痛滿	心胸痛	心胸痛
腹部	任脈	天突	心痛	心與背相控而痛	心與背相控而痛
		氣海	(-)	卒心痛	卒心痛
		建里	心痛	心痛	心痛
		中腕	心痛	心痛	心痛
		上腕	心痛	卒心痛	卒心痛
		巨闕	心痛煩心	卒心痛	卒心痛
	鳩尾	心腹痛心背相引而痛	心中氣悶	心中氣悶	

表6 心煩驚悸 (1)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
頭部	腎脈 膀胱経 胆経	強間	(-)	煩心嘔吐	腦施煩心
		百会	(-)	心煩悶驚悸	心煩悶驚悸
		頸会	煩心	驚悸	驚悸
		承光	煩心	嘔吐心煩	嘔吐心煩
		懸壺	(-)	煩心不欲食	煩心不欲食
		完骨	煩心	煩心	煩心
面部	腎脈 膀胱経	腦室	(-)	目瞑心悸	目瞑心悸
		神庭	(-)	驚悸不得安寢	驚悸不得安寢
		顴交	(-)	而赤心煩	而赤心煩
手部	肺経	曲差	(-)	心煩滿	心煩滿
		太淵	煩心	(-)	(-)
		魚際	(-)	心煩少氣	心煩少氣
		少商	煩心	煩心善嘔	煩心善嘔
		通里	(-)	心悸	心悸
	心包経	神門	(-)	心煩甚	瘧心煩
		少衝	煩心	(-)	(-)
		間使	煩心	(-)	(-)
		大陵	煩心	煩心	煩心
		勞宮	煩心	(-)	(-)

表6 心煩驚悸 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
背 部 胸 部 腹 部 足 部	大腸経 小腸経 三焦経	中 衝	煩 心	(-)	(-)
		陽 谿	煩 心	熱病煩心	熱病煩心
		少 沢	(-)	口乾心煩	口乾心煩
	腎 脈	関 衝	煩 心	(-)	(-)
		神 道	(-)	驚 悸	驚 悸
	任 脈	玉 堂	咳逆上気煩心	心煩欬逆上気	心煩咳逆
		紫 宮	咳逆上逆煩心	煩心欬逆	煩 心
	任 脈	鳩 尾	(-)	心驚悸	心驚悸
		巨 闕	煩 心	驚 悸	驚 悸
	胃 経	太 乙	(-)	心 煩	(-)
胃 経 脾 経 膀胱経 腎 経 胆 経		解 谿	(-)	煩心悲泣	煩心悲泣
	隠 白	煩心善悲	(-)	(-)	
	大 都	煩 心	(-)	(-)	
	公 孫	(-)	煩心狂言	煩心狂言	
	至 陰	(-)	煩 心	煩 心	
	湧 泉	(-)	煩心心痛	煩心心痛	
	然 谷	熱病煩心	(-)	(-)	
	竅 陰	(-)	頭痛心煩	頭痛心煩	

表7 面 赤

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成
頭 部	腎 脈	前 項	面 赤	(-)	面赤腫
面 部	腎 脈 小腸経 膀胱経	颯 交	(-)	面赤心煩	面赤心煩
		顴 膠	面 赤	面 赤	面 赤
		攢 竹	面 赤	(-)	(-)
手 部	心包経 大腸経 三焦経	間 使	面 赤	(-)	(-)
		温 溜	面 赤	(-)	(-)
		液 門	面 赤	(-)	(-)
腹 部	肝 経	期 門	(-)	面赤大燥	面赤大燥
足 部	胃 経	解 谿	面自赤	頭風面赤	頭風面赤

表8 頸項肩痛

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
頭部	膀胱経 胆経	通天 頰厭 懸顛 竅陰 完骨	項痛重	項痛重	頸項転側難
			頸痛	頸痛	頸痛
			偏項痛	(-)	(-)
面部	胆経	本神	項痺痛引痛	頭項額痛	頭項額痛
			(-)	頸項痛	頸項痛
			頸項強急	頸項強急痛	頸項強急痛
手部	小腸経	小海	頸項痛	風眩頸項痛	風眩頸項痛
足部	胆経	外丘	(-)	頸項痛	頸項痛

表9 半身不随

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
頭部	督脈	風府 百会	舌急難言足不仁	偏風半身不遂	偏風半身不遂
			(-)	偏風半身不遂	偏風半身不遂
手部	肺経 大腸経	列缺 三里 曲池	(-)	半身不遂	半身不遂
			(-)	手足不随	手足不随
			(-)	偏風半身不遂	偏風半身不遂
肩部	大腸経	肩髃	(-)	半身不遂	半身不遂
足部	胆経	環跳 陽陵泉 懸鐘	(-)	半身不遂	半身不遂
			(-)	偏風半身不遂	偏風半身不遂
			(-)	中風手足不遂	中風手足不遂

表10 口面喎斜 (1)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症		
			医心方	鍼灸聚英	鍼灸大成
頭部	督脈 膀胱経	強間 承光 通天	口喎	(-)	(-)
			(-)	(-)	口喎
			(-)	口喎	口喎
	三焦経 胆経	翳風 曲髻 完骨	(-)	口眼喎斜	口眼喎斜
			(-)	口噤不能言	口噤不能言
			口喎	口眼喎斜	口眼喎斜
面部	督脈	水溝 兑端 顴交	口喎	口喎僻	口喎僻
			(-)	口噤鼓頤	口噤鼓頤
			口喎	(-)	(-)
	任脈 大腸経	承漿 禾髻 迎香	口喎	口眼喎斜	口眼喎斜
			口喎	(-)	(-)
			口喎	偏風口喎	偏風口喎

表10 口面喎斜 (2)

身体部位	経絡名	経穴名	主治症			
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 大 成	
手 部	胃 経	承 泣	口 喎	口眼喎斜	口眼喎斜	
		四 白	口 喎	口眼喎啞不能言	口眼喎啞不能言	
		巨 膠	口 喎	口喎啞	口喎啞	
		地 倉	(-)	偏風口喎	偏風口喎	
		大 迎	口 喎	(-)	口噤不開	
		頰 車	(-)	口眼喎	口眼喎	
		下 関	(-)	偏風口眼喎斜	偏風口目喎	
		顴 膠	口 喎	口喎面赤	口 喎	
		胆 経	聴 会	(-)	中風口喎斜	中風口喎斜
		肺 経	列 欠	(-)	偏風口喎斜	偏風口喎斜
腹 部	大腸経	大 瀦	口 喎	(-)	(-)	
		二 間	口 喎	口乾口喎	口乾口喎	
		偏 歴	口 喎	(-)	(-)	
		外 関	口 喎	(-)	(-)	
		支 溝	(-)	口噤不開	口噤不開	
		通 谷	口 喎	(-)	(-)	
足 部	腎 兪 経	衝 陽	(-)	偏風口眼喎	偏風口眼喎	
		内 庭	口 噤	口 喎	口 喎	
		行 間	口 喎	(-)	(-)	
		肝 経				

3.耳鳴は11穴、4.聾は18穴、5.心痛は21穴、6.心煩驚悸は9穴、7.面赤は2穴、8.頸項肩痛は5穴、9.半身不随は1穴、10.口面喎斜は10穴であり、合計 144穴である。

これらの中、5.心痛、9.半身不随、10.口面喎斜は、高血圧症としては比較的少ない症状である。

現代の高血圧症の大部分を占める本態性高血圧症に対しては、頭痛、眩暈、耳鳴、聾、心煩驚悸、面赤、頸項肩痛の中から選択取穴する必要がある。要穴と考えられるものをまとめて行くと次のようになる。

1. 頭痛には、懸顛、完骨、上星、神庭、曲差、晴明、天柱、風池、天髎、手部の孔最、魚際、通里、太陵、合谷、陽谿、温溜、後谿、小海、中渚、消灤。

背部では命門、大杼、風門、三焦兪、腎兪。

腹部では関元。足部では解谿、飛陽、京骨、通谷、外丘、竅陰。

2. 眩暈には、頭部の顔会、額厭、面部の上星、神庭、本神、頸部の天柱、風池、背部の肝兪、腹部の関元、足部の飛陽、臨泣。

3. 耳鳴には、頭部の顔息、翳風、額厭、面部の耳門、客主人。手部の陽谿、偏歴、前谷、腕骨。

4. 聾では頭部の通天、面部の上星、素膠、迎香。背部では譙譙。手部では郄門、合谷、偏歴。足部では厲兌、承筋、飛陽、崑崙、京骨。

6.の心煩驚悸では、頭部の顔会、完骨、手部では、大陵、陽谿。胸部の玉堂、紫宮、腹部の巨闕である。

7. 面赤では、面部の顴膠、足部の解谿である。

8. 頸項肩痛では、頭部の通天、額厭。面部では本神。手部では小海である。

高血圧症に対する一般的取穴としては、

面部、髮際付近、頸部天柱、風池、手関節の周辺、背部は大杼、風門、三焦兪、腎兪。胸部は膻中。腹部は関元。足部は、飛陽、足関節周辺が

交感神経鎮静作用を有する部位と考えられる。

#### IV ま と め

984年、丹波康頼が撰述した「医心方」第二巻鍼灸篇の孔穴主治法には660穴が記載され、この中649穴は黄帝内経明堂経から引用し、他の11穴は「華佗鍼灸経」から中衝一穴、膝日二穴、「小品方」から曲沢二穴、「千金方」から膏肓二穴、風市二穴が引用されている。

殆んど唐以前の孔穴主治法を集約したものと考えられる。

「鍼灸聚英」は1529年、明の高武が編述したが、既に1027年宋の王維一が「銅人俞穴鍼灸図経」を完成しており、経絡が整備されているので、経絡に沿う取穴が増加していると考えられる。

「鍼灸大成」は1681年明の楊繼洲が編述した、「鍼灸聚英」とは70年のへだたりがあるのみで、殆んど内容は変わらないが、一部改編された所がある。教科書としては最も広く用いられている。

以上の三書で17世紀以前の古典の孔穴主治法を窺い知ることができると考えた。

現代の高血圧症の症状として、1.頭痛、2.眩暈、3.耳鳴、4.嘔吐、5.心痛、6.心煩驚悸、7.面赤、8.頸項肩痛、9.半身不随、10.口面喎斜を選び、三書の中で、それぞれの表現の見られる記載を拾い上げた。

その結果、高血圧症らしき症状に対する主治穴は、頭部の通天、額会、面部、神庭、上星、頸部の天柱、風池、手部の太陵、合谷、陽谿、背部の大杼、風門、三焦俞、腎俞、胸部の膻中、腹部の巨闕、関元、足部の飛陽、解谿等となる。これらの経穴には交感神経鎮静作用があるものと考えられる。

#### 文 献

- 1) 高島文一他：「医心方」第二巻鍼灸篇。至文堂、1982。
- 2) 高武：「鍼灸聚英」。香港広智書局、1970。
- 3) 楊繼洲：「鍼灸大成」。人民衛生出版社、1983。
- 4) 馬繼興：「医心方」中的古医学文献初探。日本医学史学雑誌、31(3)：30、1985。
- 5) 篠原孝一：「黄帝内経明堂」総説。東洋医学善本叢書、8：153、1981。
- 6) 高島文一：「医心方」第二巻鍼灸篇に記載された主治症の現代医学的解釈。日本東洋医学雑誌、34(4)：9、1983。
- 7) 高島文一：「医心方」「鍼灸聚英」「鍼灸驗穴学」における孔穴主治症の変遷について。明治鍼灸医学。創刊号：133、1985。